プレスリリース

令和６年６月 20 日

国立研究開発法人森林研究・整備機構
森林総合研究所林木育種センター東北育種場

深浦町指定天然記念物「円覚寺の竜灯杉」の里帰り

ー林木遺伝子銀行 110 番による巨樹・名木等のクローン増殖の取組ー

ポイント

青森県深浦町にある推定樹齢約1,000年の町指定天然記念物「円覚寺の竜灯杉」の後継樹が、国立研究開発法人森林研究・整備機構　森林総合研究所林木育種センター東北育種場から青森県深浦町に里帰りします。

概要

国立研究開発法人森林研究・整備機構　森林総合研究所林木育種センター東北育種場(岩手県滝沢市)では、我が国の貴重な林木遺伝資源の保存を図るとともに、品種改良等に活用することを目的とした林木ジーンバンク事業を実施しています。

この事業では、各地の天然記念物や巨樹・名木等の収集・保存を行うとともに、事業の一環として、所有者等の要請により後継樹を増殖する取組である「林木遺伝子銀行 110 番」を行っています。

今回は、深浦町教育委員会から増殖の要請を受けた「円覚寺の竜灯杉」の後継樹として、つぎ木によって増殖し育てた苗木が里帰りします。

日時：**令和６年６月 26 日（水）　午後１時 00 分**

場所：**青森県西津軽郡深浦町深浦浜町 275（円覚寺）**

問い合わせ先

国立研究開発法人森林研究・整備機構　森林総合研究所林木育種センター東北育種場

事業責任者：遺伝資源管理課　課　長　竹田　宣明（たけだ　のぶあき）

担当者：　収集管理係長　織邊　俊爾（おりべ　しゅんじ）

広報担当者：連 絡 調 整 課　連絡調整係長　濱本　光（はまもと　ひかる）

Tel：019-688-4518　Fax：019-694-1715

メールアドレス：touhokuikusyu@ffpri.affrc.go.jp

※取材される方は、事前に上記連絡先までご連絡ください。

本資料は、青森県政記者クラブに配布しています。

背景・経緯

全国には、学校や神社など身近な場所で地元の人々に親しまれ、ふるさとのシンボルとなっている天然記念物や巨樹・名木等が数多く存在します。こうした巨樹・名木等は、長い年月にわたって、風雪に耐え生育し続けているので、自然環境に対する適応性や抵抗性に優れている可能性が高く、林木遺伝資源として貴重なものです。一方で、樹木の中には衰弱しているものもあり、後継樹を増殖することが求められていました。

このため、林木育種センターでは、これら巨樹・名木等の収集・保存を進めるとともに、所有者等からの要請により衰弱しているこれら樹木の後継樹を増殖し、里帰りを行う取組である「林木遺伝子銀行 110 番」を平成 15 年から実施しています。これまでに、全国から 333 件の要請があり、255 件の巨樹・名木等の後継樹の里帰りを実施してきました（令和５年度末）。後継樹は、さし木やつぎ木で増殖したクローン苗木であり、親木と同じ遺伝子を持っていることから二代目として大きく成長することが期待されます。

内容

今回里帰りするのは、青森県深浦町の町指定天然記念物の「円覚寺の竜灯杉」です。

「円覚寺の竜灯杉」は、征夷大将軍の坂上田村麻呂が 807 年に創建したと伝えられる円覚寺にあり、江戸時代に北前船の船乗りや地元の漁師達から、竜灯杉（竜神が宿り船乗りに助けを与える神木）と呼ばれ、篤い信仰を受けてきた巨木です。推定樹齢は約 1,000 年、樹高が約 33m、胸の高さの直径が 2.36m となります。しかし、幹に穴が生じ枯損の恐れがあることから、深浦町教育委員会より令和２年に林木遺伝子銀行 110 番の申請がありました。東北育種場では令和２年３月に穂木の採取を行い、つぎ木で増殖を実施し、８本の苗木を育成することに成功しました。今回里帰りする苗木は、このうちの３本（苗高 70 cm、70 cm、60 cm）となります。

この苗木は、つぎ木により増殖させたクローン苗木であることから、親木と同じ遺伝子を持っており、二代目の「円覚寺の竜灯杉」として成長することが期待されます。

図、表、写真等

令和５年の「円覚寺の竜灯杉」の写真

「円覚寺の竜灯杉」の枝をつぎ木して育てた後継樹

Forestry and Forest Products Research Institute